

第3回 菊花美の祭典

老友連合会菊花展開かれる



津奈木

前出乃志

発行所
津奈木公民館
津北郡津奈木町
電話(代表)3111番
編集委員 旭印刷所
印刷所 旭印刷所
電話(水保)③4101番



緒方孝行さんの菊松

▲老友会の人達の数々の作品

- ◎ 町議長賞 齊藤 タマ
- ◎ 農協長賞 藤本 兵五
- ◎ 社会福祉協議会長賞 齊藤 タマ
- ◎ 教育委員会賞 藤本 兵五
- ◎ 佳作 藤本 兵五
- ◎ 西平チエ子 齊藤 タマ
- ◎ 努力賞 永松 澄弥
- ◎ 松原 兼義 山崎スミ子
- ◎ 緒方 孝行 川村 一男



千代峠の水地藏さん

津奈木町連合老友会では十一月五日から七日まで三日間中央公民館ホールに会員が一年間丹精込めて育てた百十二点が展示された。この菊作りには、教育委員会の高齢者教室にて土作りや農薬散布、管理方法など、専門の講師より指導を受け、年々技術向上し、天地位の配分も高度なものが出展され町長賞など七賞が選ばれた。入賞者は次の通り。

水地藏

堀 一一雄

是処は名にしよう津奈木太郎の險。喘ぎ、登った中腹、十五六歩右に街道からそれるあたりに、水のせ、らく音がする。山清水が混々と湧き出ている。旅人ならば走りよって喉を鳴らして飲むところ。左側に二米程石を積み地蔵二体が祀られている。何れも僧形像であるが本尊の方は高さも五十程程もあり蓮座である。全体苔むすむすいかに古めかしい。苔を拂って幼文を読むと、正面に水源南無地藏願王菩薩とあり、右側擁護に齊藤宅右工門奉造立、左側の年号は文化九年壬申年四月吉詳日、今から一六三三年位になる。

本尊の右側に高さ二十程もあろうか胴よりも頭の方が大きく見える連れ地藏さんが、ちよこりんと座ってござる。本尊のよだれかけを一枚一

保ち続ける赤崎の青年達

日羅將軍神社祭

赤崎地区では毎年十一月三日と四日、日羅將軍神社祭がある。当地を訪れてみると赤崎を一望に見おろすことのできる景観な高台でケヤキなどの大樹で囲まれているが落葉は少なく、境内の管理に地区民の暖い人情味を感じた。この祭りを盛りあげる

赤崎地区では毎年十一月三日と四日、日羅將軍神社祭がある。当地を訪れてみると赤崎を一望に見おろすことのできる景観な高台でケヤキなどの大樹で囲まれているが落葉は少なく、境内の管理に地区民の暖い人情味を感じた。この祭りを盛りあげる



將軍祭での林田・吉野君の柔の踊り

老人優等生(二)

元村キクさん(町中)



元村キクさん(83才)

元村キクさん、と云うよりロソク屋の気さきのいいおばあさんと言った方が、通りがいかもしれない。その元村さんは、明治二十六年七月二十八日の生れだから、満八十二才を越えられたわけである。山には行かれるし、野菜作りは一手に引受け、一寸もじっとして、いない元氣振りである。息子さんの壮氏に、「お母さんの元氣は、何か原因だと思いませんか」と尋ねたら「まあ気ままにやっているとはいかないでしょうか」とのことだった。

家庭に於ける年寄り優遇法の一つは「気ままに過ごさせてあまり干渉しない」ときいた。老友会では毎年県外旅行をしているが、元村さんはその常連の一人で、車中は元村さんの歌でいつも大賑いである。よくまあ、あんなにたくさん知っておられると、驚くほど、時にはきいていて、顔のほころぶようなきわどい歌も出てくるが踊りにいたっては又一流で黄腹の痛くなるほど

盛大に挙行

津奈木小学校創立百周年記念式典は、去る十月四日、秋晴れの恵まれた天気に、午前十時半から、同体育館で盛大に挙行された。

これに先立って午前九時半から、記念碑の除幕式があった。記念碑は学校入口にあり自然石を組み合せた一見灯籠のように見えるけれども、百の字を象徴したものという。三米にも余る程の大きなもので、一部にはタイムカプセルが埋められている。そしてその正面には、林田貞夫氏の達筆なる町長六車孝吉氏作の碑文が美しく彫りこまれてある。

寄贈御札

この程、左記のように、寄贈があつたので、受贈者に代り厚くお礼申し上げるとともに、ご紹介いたします。

○内野部落 谷村 晃氏
運動会用の三角旗一式、津奈木小学校へ。

○小津奈木部落 谷村行雄氏
十月十日の町民体育大会のとき、町内各部落に対して、リング大箱一箱づつの寄贈があり、引き続きの篤志に対して町民一同深く感謝している。

○津奈木町連合青年団 (団長 野崎憲章)
津奈木町連合青年団創立五十周年記念事業として実施した統一劇場「今日もどこかで」の公演に、剰余金があつたから、町内各小学校児童生徒の図書費の一部にしてほしいと、町内各小学校に対し合計五万円の寄贈がありました。

○オワビ (教育長)
郷土出身者便りは原稿の都合で今回は休ませて頂きました。

毎週水曜日になると、朝早くから、もと、池であった三号線横の広場に集まってこられる。皆ステックとボール持参で朝の挨拶が交わされている。この広場には、公式コート、老人の連が、クワや、一輪車、草払機など持ちより半日ばかりで完成させたもので、グループ発足には、ゲートボール教室に参加しておられた、河村さん、津々木さん、福島さんらが中心となって、上下門の人達にもゲートボールを知ってもらおうと、七月同広場にて教育委員会よりルールと競技方法などの説明会を開き、現在上下門老友会(谷口重義会長以下30名の会員の半数は毎回集まれ、健康で明るいスポーツに今日も上下門の空には笑いがこだまします。(林田) 上下門老人ゲートボールのみなさん

